

2026年4月 農食環境学群に「農環境情報学類」の設置を構想中

酪農学園大学（学長：岩野英知、所在地：北海道江別市）は、2026年4月に農食環境学群に新たに「農環境情報学類」の設置を構想中です。

この構想に基づき、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の「令和6年度大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）」に申請し、2024年6月26日に選定されました。

構想中の「農環境情報学類」は、地域社会、特に農業分野における労働力不足や環境への配慮といった課題の解決のため、農学・環境学・情報科学といった分野を融合した学びにより、データサイエンス・DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用し、資源の効率的な管理と利用を促進できる人材を養成することで、人と自然の共生を基にした持続可能な地域社会の実現に貢献することを目的としています。

「農環境情報学類」の情報につきましては、本学関連サイト (<https://nokankyo.joho.rakuno.ac.jp>) で発信してまいります。

【新学類概要（予定）】

名称：農食環境学群 農環境情報学類

入学定員：80名

開設時期：2026年4月

養成する人物像：農業を基礎とした地域経済、地理情報システム（GIS、リモートセンシング）による情報解析及び調査・収集したデータの分析・活用に関する農学の専門的な知識と技術を身に付け、人と自然が共生する持続可能な社会システムの構築及び地域創生・地域イノベーションに貢献できる人材を養成します。

身につく力：

- ・農環境や地域社会を取り巻く現状への深い理解及び十分な知識
- ・地域社会、特に農業分野における経済や社会システムを農学的視点と農学の専門知識・技術によって調査・分析、情報解析し、農業や環境を含む地域社会の振興に必要な計画や方策を企画・立案する能力
- ・農業や環境を含む地域社会において取り組むべき課題に対する自身の思考や判断の根拠を説明・伝達するための論理的思考力及びコミュニケーション能力
- ・発見した課題の解決に向けて、他者と協働し、主体的・自律的に取り組む能力

※上記概要については、設置構想中の内容であり、変更が生じる場合があります。

※「令和6年度大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）」申請時の計画から、学類名称並びに入学定員が変更となっております。また、同計画において、2026年4月に獣医学群獣医保健看護学類の入学定員変更を予定しておりましたが、その後の検討により計画を変更し、2026年4月の獣医学群獣医保健看護学類の定員変更は行わないことといたしました。

北海道の一次産業を支えてきた 酪農学園大学

農畜産物と加工品の44%※を日本全国に輸送し、食料基地である北海道。酪農学園大学では、約90年前から資源を循環させて自然環境への負荷を考えた「循環農法」を取り入れ、北海道の酪農の発展に貢献してきました。また、現在では広大なキャンパスに加え、フィールドワークの舞台は海外まで広がり、豊富な実習・実験・演習によって知識と実学を両立しながら実践的な学びを展開しています。

※北海道開発局「令和5年度 農畜産物及び加工食品の移出実態調査」



未来のパイオニアとリーダーを育てる 新学類を設置

高齢化や働き手の減少、農業の生産性向上、環境への配慮、農産物の高付加価値化など新たな課題を解決し、人と自然の共生を基にした持続可能な地域社会を実現するには、農学（経済学含む）・環境学・情報科学についての文理融合の学びが不可欠です。

そのため、循環農法を基盤とし、DXやAIといった最先端の技術を活用して未来の地域と農業の創造に貢献できる人材の養成を目指す「農環境情報学類（設置構想中）」を設置します。

「農」×「テクノロジー」を基礎から学ぶ

充実した農学の基盤教育

人のつながり、生命の循環、命の尊さを学ぶとともに、学生の自主性を促す教育プログラムを展開。共通教育（基盤教育・キャリア教育等）で培った力は、2年次以降の専門教育はもちろん、その先の人生にも必要となる「生きる力」につながります。

学びのキーワード

知見を広める 人間力を高める 命を体感する

学類の枠を超えた学び

酪農学園大学の2学群6学類は教育面でも深く連携しており、学生は自分の学類に限らず他学類の科目も履修できます。専門分野を超えた幅広い知識を身につけることで、学びを広げて自分の興味分野を大きく発展させることも出来ます。

特色ある専門科目とデータサイエンス

農業を基礎とした地域経済、地理情報システム（GIS、リモートセンシング）による情報解析及び調査・収集したデータの分析・活用に関する農学の専門的な知識と技術を身につけます。また、データの収集・整理・分析・活用の基本を学び、実際のデータを用いた演習などを通じてデータ処理スキルを習得します。